

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

ナガエツルノゲイトウ

ヒユ科 *Alternanthera philoxeroides*

原産地：南アメリカ

外来生物法：特定外来生物

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種

特徴

観賞用の水草として日本に持ち込まれた抽水性の多年草。河川湖沼、水田、水路などで繁茂する。中空の茎は水中でも浮き、自身の茎を絡ませながらマット状に生育する。

葉：葉に柄はないか、あっても非常に短い。長さは2.5cm～5cm、幅は0.7～2cmで同じ場所から2枚の葉が対になって生える(対生)。縁には目で見えないほどの細かいギザギザ(鋸歯)がある。

花：4～10月頃にかけて、小さな白い花が集まった花序をつける。この花序に1～4cmの柄があることから、ナガエ(長柄)ツルノゲイトウの名前に。

茎：長さは0.5～1m以上になる。中は空になっているが、水中に生えるか陸上に生えるかで太さ、硬さは大きく変化する。節ごとで折れやすい。

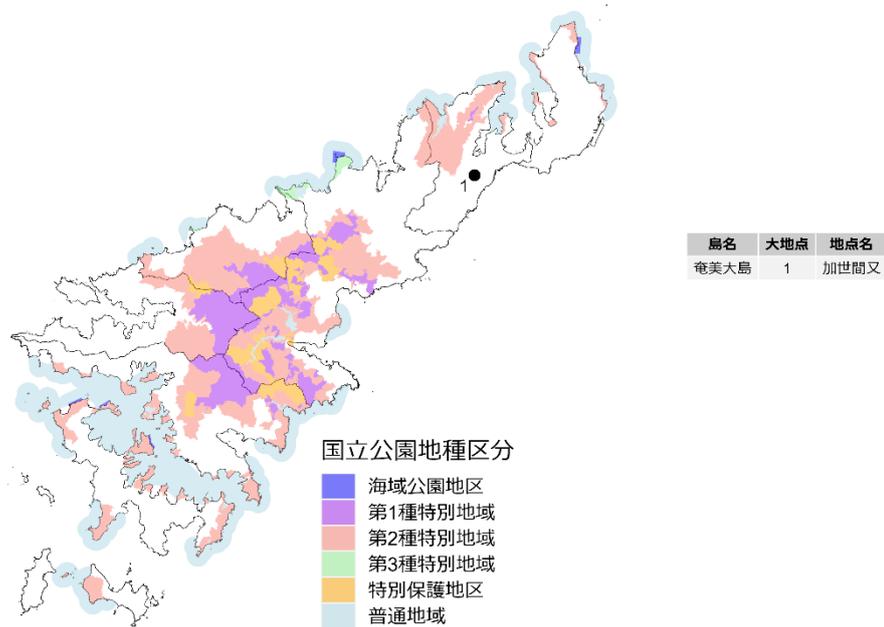
繁殖：日本で種子繁殖は確認されておらず、茎の断片からの栄養繁殖によって増えている。



影響：水路や湖沼で大繁茂し、在来植物と競合する他、水流を妨げるなどの影響が報告されている。また奄美大島、石垣島等でも水田に侵入し、作物と競合してしまうことで農業被害が起きている。

侵入状況 : 令和6年1月現在、奄美大島内では1カ所でのみ生育が確認されている。

ナガエツルノゲイトウ生育地点(奄美大島)
2024年1月17日現在



対策状況 : 未だ全体的な防除作業には至っていない。

防除のコツ : 種子繁殖していないと考えられるため防除の時期は問わないが、奄美では冬に嵩が大きく減っていることから冬に作業を行うのが効率的など考えられる。1、2ヶ月間隔での定期的な抜き取り作業が求められる。

リンク :

ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル 農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構
<https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/documents/nagaetsurunogeitoukunikujyomanual.pdf>